

キュクロプス

清流劇場2025年10月公演

原作: エウリピデス Original Work by Euripides

上演台本・演出: 田中孝弥 Stage Adaptation and Direction by Tanaka Atsuya

原作翻訳: 丹下和彦 Translation by Tange Kazuhiko

——貧民街の怪物

大阪 一心寺シアター倶楽
東京 駅前劇場

10月16日(木)~19日(日)
10月23日(木)~26日(日)

この目は見ている。
お前たちが
何をしようとしているか。

SEIRYU
THEATER

芸術文化振興基金助成事業

キュクロプス

清流劇場2025年10月公演

——貧民街の怪物



高口真吾 アンディ岸本 日永貴子 八田麻住 (マスマンゾラ) 曾木亜古弥 辻登志夫 (tsujitsumaぶろでゆ〜ず) 大対源 山本香織 (道頓堀セレブ) 仙波宏文 (音楽・演奏)

2025年10月16日(木)~19日(日)

10/16 木 17 金 18 土 19 日
14:00 19:00

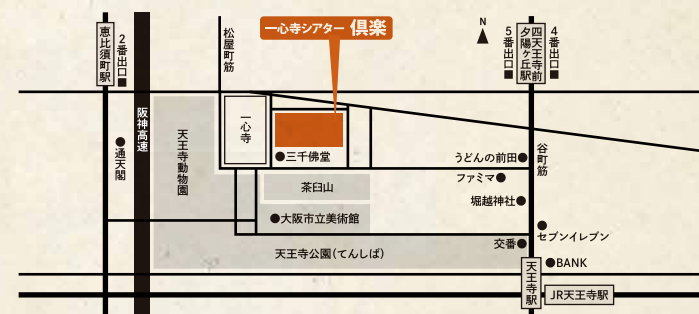
※各回、開演5分前から田中孝弥によります《ピフォアトーク》を行います。
★終演後、アフタートークがあります。(出演者はwebで公表)

一心寺シアター倶楽

〒543-0062 大阪市天王寺区逢阪2-6-13 B1F tel.06-6774-4002

<https://isshinji.net/>

※各線「天王寺駅」、Osaka Metro谷町線「四天王寺前夕陽ヶ丘駅」、堺筋線「恵美須町駅」より、徒歩約15分。
※お客様用駐車場はございません。お車で越しの場合は近くのコインパーキングをご利用ください。



入場料金(税込): 全席指定※1
前売券4,800円 当日券5,300円※2

各種割引券※3
ペアチケット9,000円
U-22券2,500円(22歳以下の方)※4
シニア券4,500円(70歳以上の方)※4
ハンディキャップ券3,500円※4※5

○開演45分前より受付開始、開場は開演の30分前です。
○小学生以下のお子様は入場できません。
○作品上演中の入場は制限させていただく場合がございます。
○会場内での喫煙・写真撮影は禁止です。

※1 座席指定番号は、予約・購入順となり、当日受付でのお知らせとなります。
詳細についてはウェブサイトをご覧ください。
※2 当日券のお客様は、開演1時間前より受付開始。完売の際は、当日券の販売はありません。
※3 各種割引券は、前売発売のみとなります。
※4 U-22券・シニア券・ハンディキャップ券は、当日受付にて証明書を提示いただきます。
※5 ハンディキャップ券は、清流劇場へお申し込みください。枚数限定。

鑑賞サポート(要事前申し込み・定員あり)

※事前台本貸出 オンラインで上演台本の事前貸出ができます。ご希望の方は予約の際、備考欄に「上演台本事前貸出希望」とご記入ください。来場1週間前にメールでご案内します。
※車いすご利用の方、お身体の都合で座席にご希望がある方 ご予約の際、座席の希望を備考欄にご記入ください。(予約時期によっては、ご希望に添えない場合があります)
※トリガーアラートについて 一部、暴力的表現があります。観劇に関して確認が必要なお客様は、メールか電話で「清流劇場」へお問い合わせください。

チケット取扱い

- ①クレジット決済/PayPayをご利用の場合:
PassMarket(<https://passmarket.yahoo.co.jp/>)よりご購入ください。
- ②カンフェティをご利用の場合:
http://confetti-web.com/@/seiryutheater_cyclopsよりご購入ください。
指定席引換券を発行します。
- ③銀行振込の場合:
清流劇場ウェブサイト内の「ご予約フォーム」より必要事項をお知らせください。＜振込先口座のご案内＞をメールにてお送りしますので、手続きをお願いします。
[振込期限: 大阪公演10月8日(水)]
★①②③いずれの場合も、開演5分前にご来場されていない場合、座席指定は解除となります。



スタッフ

舞台監督: 大野亜希 舞台監督助手: 中井麻美 舞台美術: 内山勉 舞台美術アシスタント: 新井真紀 照明: 森和雄 照明オペ: 木内ひとみ 音響: 八木進(baghdad café)
衣装プラン: Yoshio Yabara 衣装・小道具: 曾木亜古弥 ヘアメイク: 島田裕子 振付: 東出ますよ 大道具: K-Fluss 宣伝動画: 板倉善之
web・制作協力: 飯村登史佳 写真: 古都栄二(テス・大阪)・坂内太(東京公演) ビデオ: 岩本純一(大阪公演)・三宅流(東京公演) 宣伝美術・絵: 東學(一八八) 制作助手: 木井礼子
鑑賞サポート: 舞台ナビLAMP・堀内立誉・濱口美也子
フライヤー写真提供: 尼崎市立歴史博物館あまがさきアーカイブズ
協力: 名取事務所 リコモーション ライターズ・カンパニー イズム キノ・キネマ 相澤菜歩 ミツ石祐子 森本優子 佐々木治己 川口典成

提携: 一心寺シアター倶楽 後援: 駐日ギリシャ大使館 日本ギリシャ協会 制作: 永朋 企画: 清流劇場

清流劇場web: <https://seiryu-theater.jp>

お問い合わせ: ●e-mail: info@seiryu-theater.jp ●tel: 080-2487-1347

今公演終了後、映像配信(有料)を行います。
詳細はウェブサイトをご覧ください。

SEIRYU
THEATER

清流劇場ウェブサイトのご案内
☆清流劇場では公演サポーター(個人様からの寄付)を募集しています。コースによって、いろいろな特典もご用意しています。ご支援をよろしくお願いします。
☆過去作品のダイジェスト映像や舞台写真を公開しています。是非、ご覧ください。

introduction

善と悪の間

オデッセウス（ギリシアの英雄）は本当に「正義の人」なのか？
 キュクロプス（二つ目の人喰い怪物）はそんなに「恐ろしい者」なのか？
 古代ギリシアのサテュロス劇『キュクロプス』を読んだとき、
 私はそう問いかけていたように感じた。

この物語を現代に上演するための手掛かり——
 今も昔も変わらず「人が心に抱え、拭いきれないものは何か」。
 オデッセウスは、国家を背負いながら、自己保身と謀略を繰り返す政治家に見えた。
 キュクロプスは、異形の肉体を持ち他者と隔てられながらも、
 畜地に根を張り、懸命に生きる人に見えた。

そのとき、頭に浮かんだのは、私の故郷、尼崎の武庫川河川敷でかつて暮らしていた人たちのことだ。
 行政によって強制的に立ち退かされ、「なかったこと」にされた人たち。
 都市の周縁に暮らしながら、「町の人たちとは違うニオイのする者」とされ続けた人たち。
 その姿はまさに「現代のキュクロプス」ではないか。

私は、オデッセウスとキュクロプスを、「行政」と「見えない存在にされた者」の対峙として描きたい。
 そして、この二人もそれぞれ、心の中は善と悪の間で揺れ動きせめぎ合う——
 その姿を通して、人が心に抱え、拭いきれない「業（ごう）」を浮かび上がらせたい。

田中孝弥

story

※本作はエウリピデスの唯一現存するサテュロス劇『キュクロプス』を基に、一九六一年の武庫川河川敷（兵庫県尼崎市）を舞台に再構築した作品です。

一九六一年、尼崎・武庫川河川敷。屋根に「二つ目」が描かれたバラックが建っている。ここには長年、貧しい人々が住み着き、クズ鉄屋の親方（キュクロプス）を中心に暮らしていた。だが、県は「河川敷の美化と防災」を名目に住民の立ち退きとバラックの取り壊しを強行しようとしている。

台風が襲来した夜、親方夫婦とその家族は、バラックが流されないよう懸命に備えている。その姿を、県の土木建築部長（オデッセウス）とその部下たちが、橋のたもとから眺めている。部長は「強制代執行」の責任者であり、河川敷住民を立ち退かせる役割を帯びている。部長らは身分を偽り、河川調査員と土木技師として、親方のバラックを訪れる。台風による浸水被害から逃れるため、助けを求めにきたという口実である。親方の妻は、酒に目のない義弟が「部長らの用意した酒」に手を出してしまったことから、泣々、彼らの滞在を受け入れる。

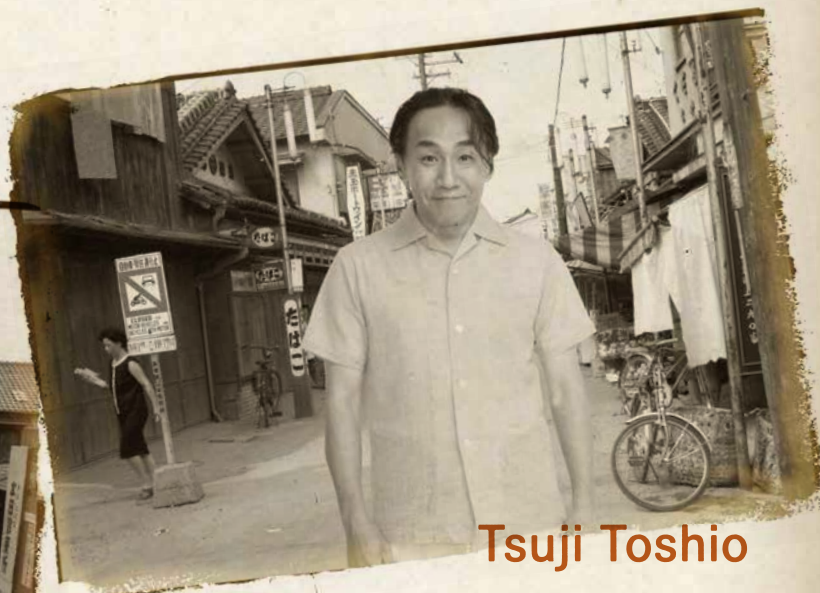
しばらくのち、作業場から帰ってきた親方は、部長らを「代執行」の関係者ではないかと怪しむ。部長は懸命に「河川調査が目的」と釈明するが、親方は彼らの言葉を信用しない。

怪物はだれだ？

Takaguchi Shingo



Tsuji Toshio



Yamamoto Kaori



Hinaga Takako



Hatta Masumi



Sogi Akoya



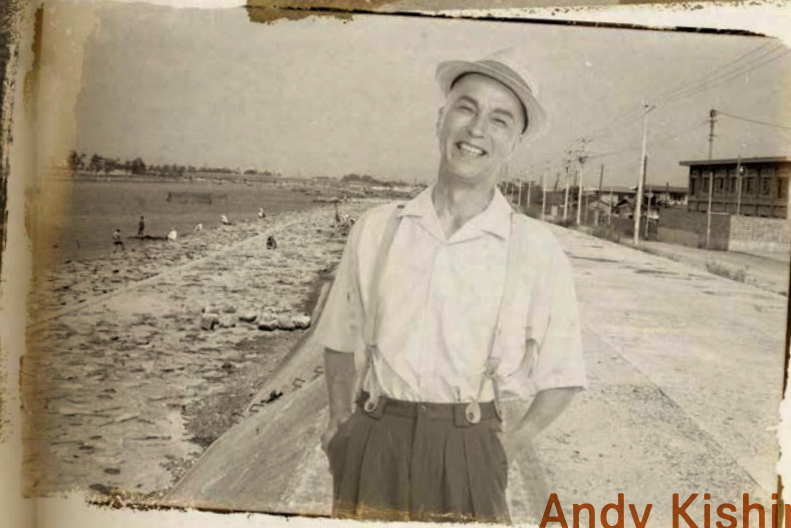
Ohtsui Gen



Semba Hirofumi



Andy Kishimoto



Instagram



x



YouTube